

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Mother-to-infant bonding failure and intimate partner violence during pregnancy as risk factors for father-to-infant bonding failure at one month postpartum: an adjunct study of the Japan Environment & Children's Study

和文タイトル: 父親の乳児に対する情緒的絆の障害(ボンディング障害)の実態調査;エコチル調査宮城ユニットセンター追加調査より

ユニットセンター(UC)等名: 宮城UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine

年: 2018 月: 卷: 頁:

筆頭著者名: 西郡秀和

所属UC名: 宮城UC

目的:

父親の乳児に対する情緒的絆の障害(ボンディング障害)の実態調査を検討した。

方法:

エコチル調査に参加した父親を対象に、乳児に対するボンディング障害について、産後1か月に調査を行った。ボンディング障害の評価方法として、赤ちゃんの気持ち質問票を用いた。

結果:

1008名のカップルを対象に検討を行った。ボンディング障害の程度が強い父親のリスク要因として、①母親(パートナー)のボンディング障害の程度が強い、②妊娠中のパートナーへの家庭内暴力、③父親の産後うつなどがあげられた。父親と母親のボンディング障害の程度を示す点数は相関を示した。

考察:(研究の限界を含める)

近年、日本において周産期メンタルヘルスが注目されてるが、父親に関する研究は少ない。父親の乳児への情緒的絆の障害(ボンディング障害)のリスク要因が、①母親(パートナー)のボンディング障害と②妊娠中のパートナーへの家庭内暴力既往であることを世界で初めて示した。児童虐待予防から、母親のみならず父親に対するボンディング障害のスクリーニングと、その対応が必要であることを示した。本調査の主な限界としては、調査に参加していたカップルはエコチル調査に協力的な方々である、したがって参加者のバイアスがある。

結論:

産後1か月における父親の乳児に対するボンディング障害のリスク要因が明らかになった。児童虐待予防の観点から、母親だけでなく、父親の周産期メンタルヘルスについても着目し、そのケアが必要である。